

# 令和4年度 自己評価結果報告書

幼保連携型認定こども園 旭学園第二幼稚園

## 1. 本園の教育目標

人が生まれながらに持っている善意を目覚めさせ、幼児の間に全人格の基礎を無意識の中に個性に応じて作り出すのが本園の目的であり、理想である。

また、教育方針としては、幼児心理に基づいて、生活経験豊富で健康明朗な幼児の育成に努めることを主眼としている。

- 集団生活の中で育つ社会性
- たくましい体と精神力
- 考える力と創造力を豊かに
- 楽しい行事を通じて経験を豊かに

## 2. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

- |                      |
|----------------------|
| A: 十分達成されている         |
| B: 達成されている           |
| C: 取組まれているが、成果が十分でない |
| D: 取組みが不十分である        |

## 3. 評価項目と取組状況

自己評価項目	評価	取組み状況
<b>[教育方針・目標]</b> 園の教育方針や目標について、教職員の間で話し合い、理解を深めている	A	・職員会議を定期的に行い、意見交換、意識の共有を図っている。
<b>[全体的な計画の理解]</b> 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく全体的な計画を理解し保育を行っている。	B	・全体的な計画、年間計画の理解を深めた上で保育を行っている。
<b>[指導計画の作成と評価]</b> 日々の指導計画を作成し、終礼などで話し合い、評価反省をして次の保育に生かしている。	B	・日案、週案、月案を作成し、学年での話し合いを行っている。
<b>[教職員同士の協力・連携]</b> 園児のことについて教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A	・クラス間での話し合いや学年主任への報告、相談を行い、情報共有している。 ・必要に応じて、教職員全体で共有をしている。

自己評価項目	評価	取り組み状況
<b>【園で重点的に進めている保育の充実】</b> 園で進めている幼児漢字教育・ピアジェ教材の保育・体操などの保育を継続的に行い、充実させている。	A	・カリキュラムに従い、毎月実践指導している。
<b>【危険防止の意識・安全管理体制の整備】</b> 危険防止の意識を常に持つ。また緊急時の対応手順について、全教職員が共通理解をもち対応できる体制にある。	A	・月1回、避難訓練を実施 ・門番の配置・来園者確認・防犯訓練の実施 ・安全点検と危険箇所の確認 ・AEDの導入
<b>【保護者との協力・連携】</b> 保育参観や懇談会などを開き、子供の成長や保育、家庭の様子などの意見交換をしている。	A	・年3回の保育参観、年1回のクラス懇談会、個人懇談、家庭への電話連絡を行っている。
<b>【園児一人一人の習得度に応じた指導の充実】</b> 園児一人一人の習得度や特性を見極め、個別指導などで習得度を高めている。	B	・個別指導も行い、その園児に合わせた声掛け、指導を行っている。 ・発達段階について職員間で情報を共有
<b>【研修への取り組み】</b> 教職員の育成の場として、園内、園外研修が計画的に実施されている。	B	・オンライン研修を複数行った。 ・園内での保育内容の確認
<b>【食育の充実】</b> 食育に取り組み、園児の食生活や食物に対する知識を充実させている。	B	・トマト、きゅうりなど野菜への水やり、収穫。 ・育てた野菜を食べた。 ・食育だよりの配布

#### 4. 総合的な評価結果

結果	理由
A	3. の結果を平均化した(四捨五入)。前年度より総合評価は上がったが、数値としてはぎりぎりであり、課題もいくつかあるため、今後さらなる向上が求められる。

#### 5. 今後取り組むべき課題

- 日々の振り返り、反省を行う機会をもっと増やす。
- 園児に合わせたカリキュラム習得度の設定。
- 効率化できるところを増やし、限られた教育(保育)時間を有効活用する。
- 保育の質の維持、新たな取り組みの検討(実践)。

## 【施設関係者評価】

○もう少し食育に力を入れてほしい。

○全体的な計画の理解、保護者との協力連携について、もう少し主体的に取り組んでほしい。